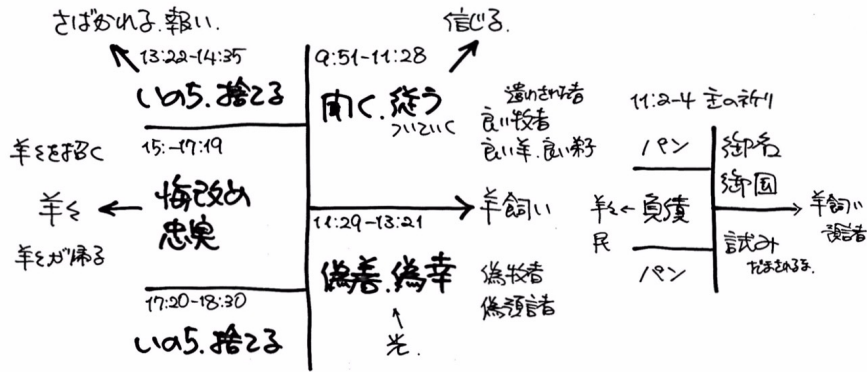




ルカ福音書9-18章

ルカ Q:51-18:30

2017.3.17



ILシヤ23:) 偽牧者
 イセキエル34: (預言者・祭司)
 詩23, 77, 78, 79, 80, 95, 100
 神は良い牧者

ルカ福音書9章51節から18章30節まで、大きな流れを確認しています。

この形が普通と違います。普通4つに分けるときは、十字に分けているのですが、大きく分けた時に、この後半の13章22節からのところが、a,b,b,aという形になっていて、b,bのほうが全体を見たときの中心になっているだろうということで、この形に書いてあります。いのちを捨てる(a)、いのちを捨てる(a)と言っているところで一つ。悔い改め(b)と忠実(b)で一つということで、この4つということで比べています。

一つ一つが分析がまた別にあります。これが一番目の分析です。9:51から11:28(聞く、従う)。次が11:29から13:21(偽善、偽幸)。13:22からのところが、この部分(13:22-14:35いのち、捨てる)とこの部分(17:20-18:30いのち、捨てる)ということで、まとめた分析になっています。真ん中のところ(悔い改め、忠実)は、15:から17:19ですけれど、2つに分かれていますので、2つに分かれていますよという分析になっています。

それぞれのかたまりを一緒に見たときに、どういう組み合わせになっているかということ格闘しました。最終的にここまでいったよというところは、こちらの2つ(聞く・従う、偽善・偽幸)とこちらの2つ(いのち・捨てる x2、悔改め・忠実)が、羊飼いの民(聞く・従う、偽善・偽幸)と羊たち(いのち・捨てる x2、悔改め・忠実)。良い牧者・偽りの牧者(聞く・従う、偽善・偽幸)と神様の声を聞いて集められて神様の家に帰ってくる羊たち(いのち・捨てる x2、悔改め・忠実)というこの2つで大きな流れが構成されているのではないかと思います。

11章の最初の段落、1節からのところに、主の祈りがあります。主の祈りは、マタイ福音書の主の祈りと違うのです。「御心の天になるごとく」が入っていないのと、「悪より(悪者より)救ってください」という文章が入っていません。ですから、構成が違うように見なくてはいけないということだと思います。

祈りの課題として数は、1,2,3,4,5個と分けられるようになっていますが、マタイは6個というふうに分けました。6個を1個、2個、1個、2個という4つに分けたのですが、ルカ福音書の主の祈りは、今の段落の良い牧者が羊たちを導くというこの段落が、この祈りの構成と同じなのではないかというように考えています。

最初の9章51からの段落には、主の名、イエスの名がつけられているとか、父と子と御霊、父と子と御霊、主の名の話と、神の国、神の国が来ますというようなことがずっと出ていますので、御名と御国の話はセットかなということですが。

それと、次のこの段落(11:29-13:21)は、光が来て裁かれる、暴露されるのですが、偽り者の善、偽りの幸い、これが裁かれますよ、裁きの日に暴露されますよということが言われているこの段落(11:29-13:21)、これは、ここ(ルカ11章)で言うところの「試みに会わせないでください」。悪者を裁いてくださいということよりも、偽りに騙されないようにという騙されるなということが強調されているので、悪者が裁かれるようにということよりも、試みに会わせないでくださいだけが書いてあるのかもしれないと考えています。

それと、ここ(13:22-14:35)とここ(17:20-18:30)は、すべてを捨てないと弟子になれません、すべてを捨てないと永遠の命はいただけませんということで、最初に十字架の話があります。そして食卓に招かれている。それで、神様を呼ぶと聞いてくれるという祈りのところがあつたりしますので、この2つは、(11の)「日毎の糧を与えてください」というところかなと。

真ん中のところ(15:-17:19)は簡単です。罪を赦して悔い改める。そして、負債を赦すという話が富の話、財産の話の中に、金持ちと貧乏人というようなところで、(11章)「負債を赦す、負い目のある者を赦す」ということが、中心の話になっています。

ルカ福音書の主の祈りの構成と9:51からの良い牧者として、遣わされた者が、主の名がつけられている牧者として戦って、神が導かれることを求めているという全体の構成と一致しているのかなというふうに見ています。

羊飼いというのは、エレミヤ23章、エゼキエル34章あたりを見ると少し長く出てきます。良い牧者と言っているようなところは、主のことばを預言する牧者、預言者のことばに聞き従ってついていく良い羊。良い牧者は、良い羊の代表みたいな感じがします。遣わされた者がいますけれど、良い弟子は、良い牧者であるということです。

良い牧者の話は、エレミヤ、エゼキエルのところに、預言者、祭司が、汚れて偽り者であるということを断罪しているわけです。良い牧者のほうは、詩篇23,77,78,79,80篇のあたりに「主は良い牧者として導きます」と、「民を作ります」という95,100篇ということでもこちらに出てきます。

良い牧者と言っているときには、預言のことばを語っている。ルカ福音書の出だしのところで、バプテスマのヨハネ、預言者であるバプテスマのヨハネの預言と、その預言されていた神の小羊、羊たちの代表であるイエスキリストというふうに出てきますので、神の声に聞き従って、最後まで忠実に自分のいのちを捨てて、神に従う羊の代表である

キリスト。ということで、預言者と羊たちと言っている預言者が中心に出てくるところは、ルカ福音書の全体の流れの中で妥当なのかなというように思います。

信じて従っていくこと、そうすると、裁かれる、報いが与えられる。捨てられるか、神様の家に入れられるかというこの報いのほうですね。聞くこと、信じること、忠実であることということの全体像の中で、羊飼いと羊たちという光の裁きによって、偽(にせ)の牧者、偽(にせ)の預言者が裁かれるということで全体を見てみると良いのではないかなという分析です。